

## 第九章 スペイン

### 一 アビニョン経由でマドリッドへ

マルセイユで預けていた荷物を受け取り、マドリッドに向かうこととした。途中、『アビニョンの橋の上で』の歌で有名なアビニョンに寄った。今度は、スムーズにアビニョンの橋を見つけることができた。

マドリッドに着き（五月二十四日早朝）、小さいがきれいなホテルに泊まった（一泊1000円程度）。マドリッドの街は、街路などの清掃が行き届いており、大変美しいとの印象を持った。街中の公園を散策し、まずプラド美術館を訪れた。

プラド美術館には、『裸のマヤ』や『着衣のマヤ』などで有名なゴヤの作品が多数展示されている。また、エル・グレコやベラスケスなどのスペイン絵画の他、イタリア絵画なども多数展示されている。展示数と広さの関係などから、ルーブル美術館よりも鑑賞しやすいかも知れない（昔の個人的感想である）。なお、このプラド美術館でのゴヤの絵画をきっかけで帰国後、堀田善衛作の『ゴヤ』を読んだ。「不気味だが人を引き付ける絵が数多い」「数奇な運命であった」程度の記憶なので読み直してみたい。

1 代表作として『カルロス4世の家族』、『着衣のマハ』、『裸のマハ』、『マドリッド、1808年5月3日』、『巨人』などがある。プラド美術館所蔵。これらは聴力を失って以後の後半生に描かれたものであるとのこと。『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』2023年10月25日（水）04:59 UTC URL: <https://ja.wikipedia.org/wiki/フランシスコ・デ・ゴヤ>

## 二 闘牛見物

スペインといえば、プラド美術館の他は、フラメンコと闘牛程度の知識しかなかった。フラメンコはハードルが高そうであつたので、闘牛見物を目指した。会場を地図で見つけその場所に行った。しかし、チケットは売り切れていた。悩んでいると、転売しているオジサンが寄ってきて、正規の値段の二倍を提示してきた。迷ったが、毎日開催していないようなので、この機会を逃すと観られないと思い、チケットを買った。屋根と太陽の関係で、陽が射す席、陰になる席で値段がかな



マドリッドの街



マドリッドの街



闘牛場にて



闘牛の最後のシーン



闘牛場のチケット

り異なっていた。もちろん、安い方を買った（約2000円）。闘牛が始まった。順番で出し物が変わっていく。詳細を述べることはしないが、最後、牛が殺されるのを見て良い印象はなかった。もつと、闘牛の見どころを勉強しておけば違った感想があったかも知れないがその程度の感想であった。

### 三 トレド日帰りツアー

トレドは、マドリッドの南方約70 kmにある古い街である。街並み全体の景観、トレド大聖堂、エル・グレコの絵画などで有名な観光名所である。マドリッド市内からの日帰りツアーに申し込み、訪問した。

このツアーには特別の思い出がある。昼食にパエリアが出た。大鍋で作られたものがツアーメンバーに配られたが、初めてのパエリアだったし、ずっと米を食べていなかったのでも感激した。トレド大聖堂や街並みも良かったが、このパエリアがトレドというよりもスペインの一番の思い出かも知れない。帰国後、パエリアが福岡でも食べられるようになったので何度も食べた。

なお、西へ進むとポルトガルであるが、日程を考えて行かなかった。少し残念である。また、後日バスク地方のことを知った。今なら、訪問していただろう。そして、パエリア以外の料理も楽しんだであろう。



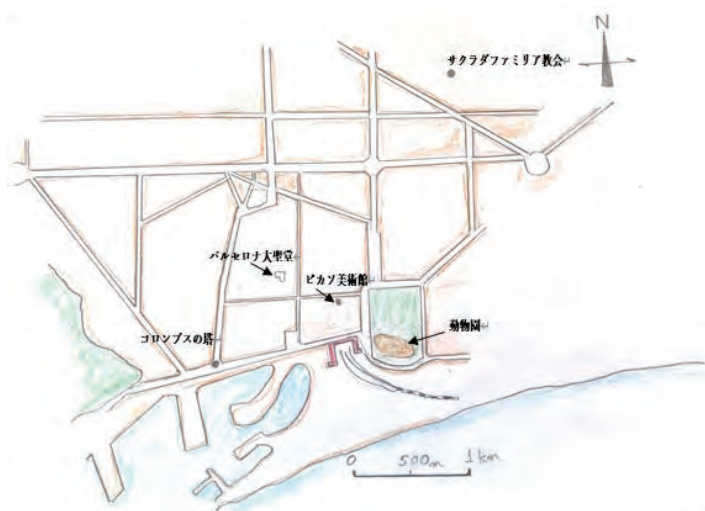
トレドへ向かう途中のエスコリアカ



トレドの遠景

#### 四 バルセロナ

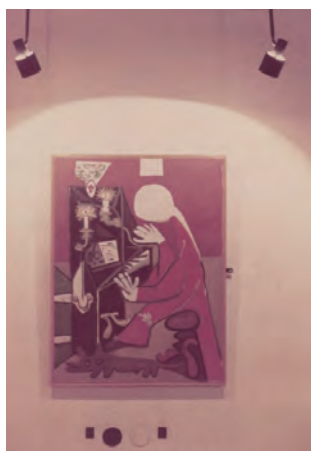
バルセロナと言えば、今では『サクラダ・ファミリア』が最も有名であろう。当時は、そこまでは有名な教会とは知らなかった。自分の知識不足であった。ガイドブックを参照して、まずは『ピカソ美術館』を訪れた。細い路地にある古い建物に在ったように思う。この美術館は、ピカソの若い頃の作品——「青の時代」として有名な頃の作品などが展示されているとのことであった。ピカソから一般的に想像される抽象画の他に、この美術館には写実的な作品も数多く展示されており私には十分楽しめた。



バルセロナ



ピカソ美術館



ピカソ美術館

次に、港に「コロンブスが乗った船（レプリカか?）」があるとのことで行った。乗船できた。その次に動物園を訪ねた。白いゴリラで有名とのこととで惹かれた。確かにそこにいた。動物園などは、公園を兼ねているような場所であるのでくつろげた。

『サクラダ・ファミリア』を訪問しなかったのは残念である。白いゴリラよりもそちちを見るべきであった（当時は、水族館や動物園が好きだった）。サクラダ・ファミリアは観なかったが、バルセロナ大聖堂は訪問した。見事な建築物であった。



コロンブスの塔



コロンブスの船



白いゴリラ



バルセロナ大聖堂

そして、次の目的地、スイスのツェルマットを目指した。移動の列車で、欧米人のバックパッカーのグループと一緒にいった。中にはきれいな女の子もいたが、そのグループの輪の中へ入れなかった。私の性格の問題もあったが、やはり語学の壁が大きかった。その後、英語を勉強する機会もあり、当時よりは少しはマシになったが、現在もまったく不十分である。